

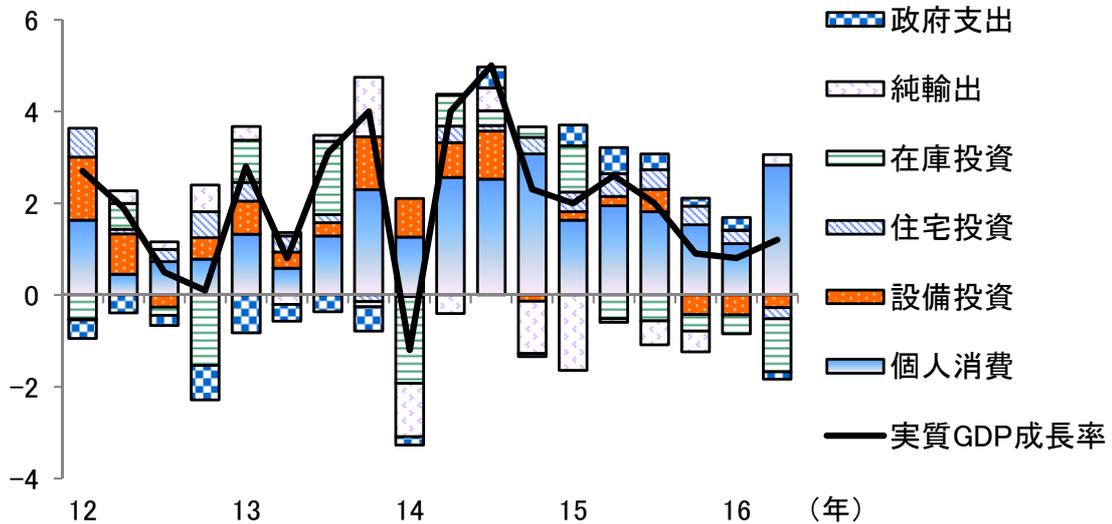
# アメリカ経済グラフポケット (2016年8月号)

2016年8月8日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター  
上野 まな美  
エコノミスト 橋本 政彦

## 実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



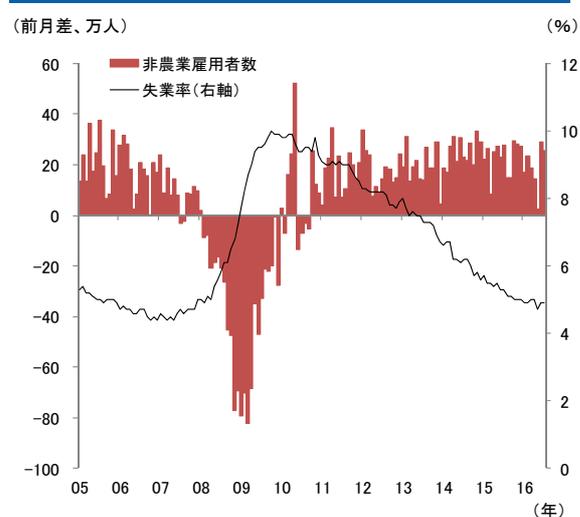
(前期比年率、%、%pt)	2014		2015				2016	
	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6
国内総生産	5.0	2.3	2.0	2.6	2.0	0.9	0.8	1.2
個人消費	3.7	4.6	2.4	2.9	2.7	2.3	1.6	4.2
設備投資	8.3	-1.1	1.3	1.6	3.9	-3.3	-3.4	-2.2
住宅投資	3.6	11.4	13.3	14.9	12.6	11.5	7.8	-6.1
政府支出	2.5	-0.4	2.6	3.2	1.9	1.0	1.6	-0.9
輸出	2.1	4.5	-5.8	2.9	-2.8	-2.7	-0.7	1.4
輸入	-1.2	11.2	5.6	2.9	1.1	0.7	-0.6	-0.4
寄与度								
個人消費	2.5	3.1	1.6	1.9	1.8	1.5	1.1	2.8
設備投資	1.1	-0.1	0.2	0.2	0.5	-0.4	-0.4	-0.3
住宅投資	0.1	0.4	0.4	0.5	0.4	0.4	0.3	-0.2
在庫投資	0.3	0.2	1.0	-0.5	-0.6	-0.4	-0.4	-1.2
政府支出	0.5	-0.1	0.5	0.6	0.3	0.2	0.3	-0.2
輸出	0.3	0.6	-0.8	0.4	-0.4	-0.3	-0.1	0.2
輸入	0.2	-1.7	-0.9	-0.4	-0.2	-0.1	0.1	0.1

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

## 雇用環境<sup>1</sup>

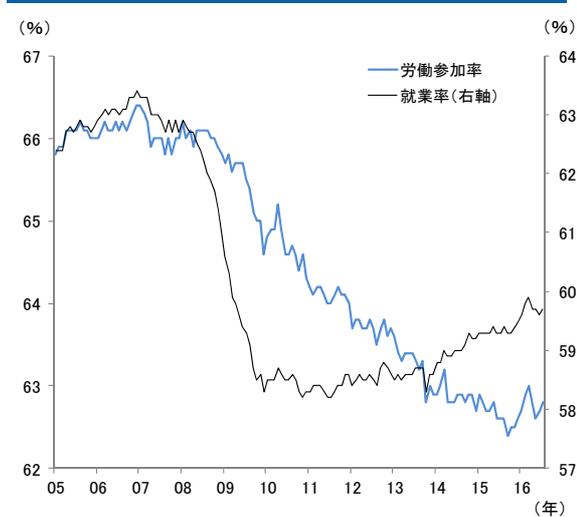
- ◆ 2016年7月の失業率は4.9%であった。前月から横ばいとなり、引き続き低水準を維持している。労働参加率は前月から0.1%ポイント上昇した。
- ◆ 7月の非農業雇用者数の前月差は25.5万人増で、前月に比べて多少減速したものの、2ヵ月連続で20万人超と好調であった。非農業雇用者数の前月差の6ヵ月平均は18.9万人増であった。

### 非農業雇用者数と失業率



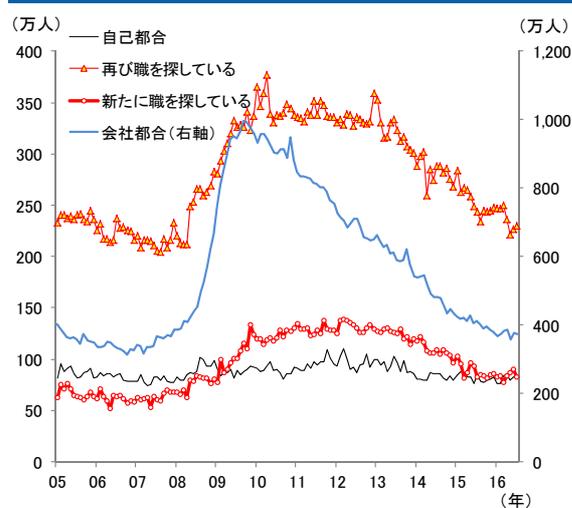
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

### 労働参加率と就業率



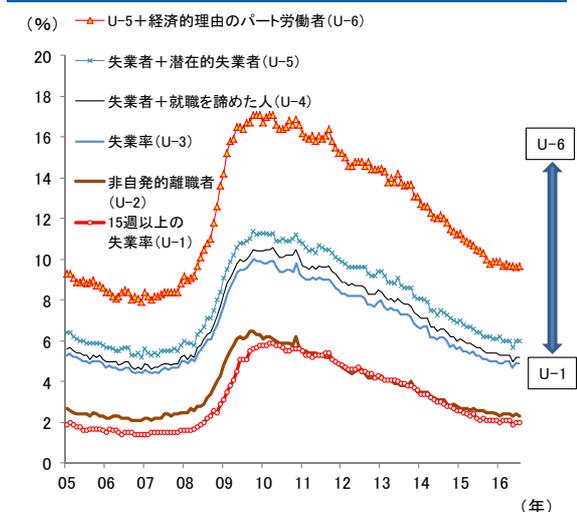
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

### 理由別失業者数



(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

### 定義別失業率



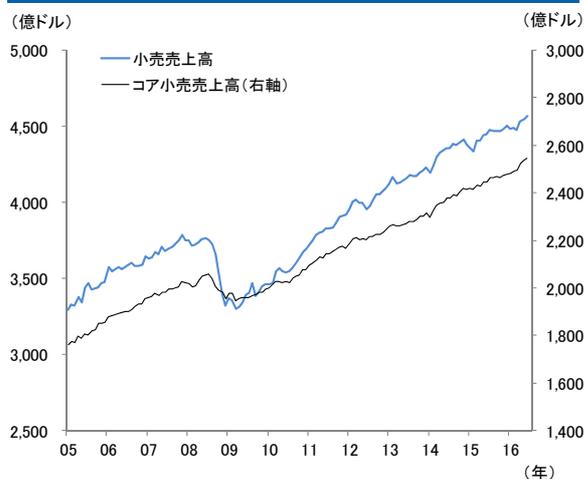
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

<sup>1</sup> 大和総研 ニューヨークリサーチセンター 橋本政彦「米国労働市場は堅調さを取り戻す」（2016年8月8日）参照。[http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20160808\\_011140.html](http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20160808_011140.html)

## 個人消費

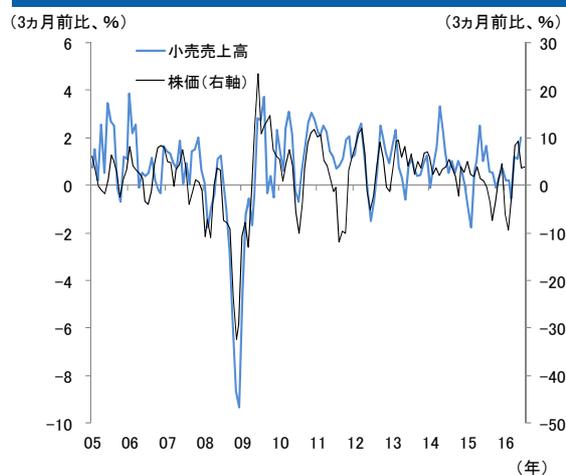
- ◆ 2016年6月の小売売上高は前月比0.6%増で、3ヵ月連続で増加した。コア小売売上高も同0.5%増と8ヵ月連続で増加し、堅調な推移が続いている。
- ◆ 7月の自動車販売台数は前月比6.8%増加し、年率換算で1,788万台であった。ライトトラックの販売増を主因に、3ヵ月ぶりの増加となった。
- ◆ 7月のロイター/ミシガン大消費者センチメントは、前月の93.5から90.0へと低下した。特に期待指数の低下により全体指数が押し下げられ、2ヵ月連続で低下した。

### 小売売上高の推移



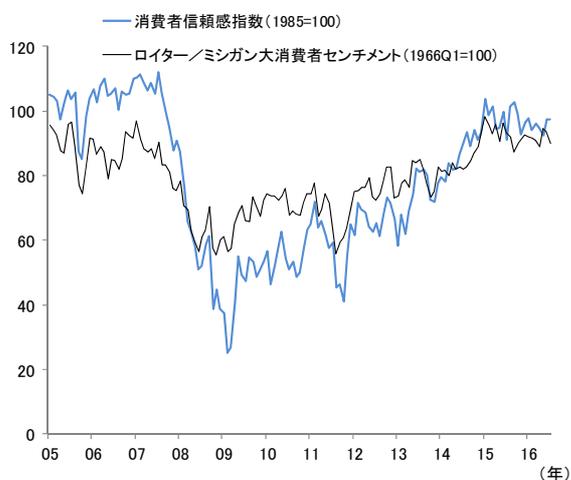
(注)コア小売売上高は自動車ディーラー、ガソリンスタンド、  
建材・園芸、飲食サービスを除く。  
(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

### 消費と株価



(注)株価はWilshire5000。  
(出所) Census, Dow Jones, Haver Analyticsより大和総研作成

### 消費者マインド



(出所)ロイター/ミシガン大, Conference Board, Haver Analyticsより  
大和総研作成

### 自動車販売台数



(出所)Autodata, Haver Analyticsより大和総研作成

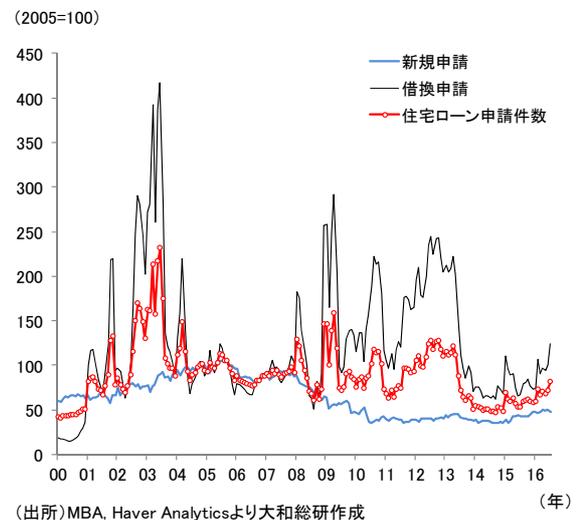
## 住宅市場

- ◆ 2016年6月の新築住宅着工（一戸建てと集合住宅を含む）は、前月比4.8%増の年率換算118.9万戸であった。一戸建てと集合住宅がともに増加し、前月から増加に転じた。
- ◆ 6月の中古住宅販売（一戸建て）は、前月比0.8%増の年率換算492.0万戸であった。4ヵ月連続で増加し、2007年2月以来の高水準になった。
- ◆ 6月の新築住宅販売（一戸建て）は、前月比3.5%増の年率換算59.2万戸となり、2008年2月以来の高水準となった。
- ◆ 5月のケースシラー住宅価格指数（20都市）は前月比0.1%低下した。2ヵ月連続の低下となり、上昇傾向が続いていた住宅価格に足踏みが見られている。

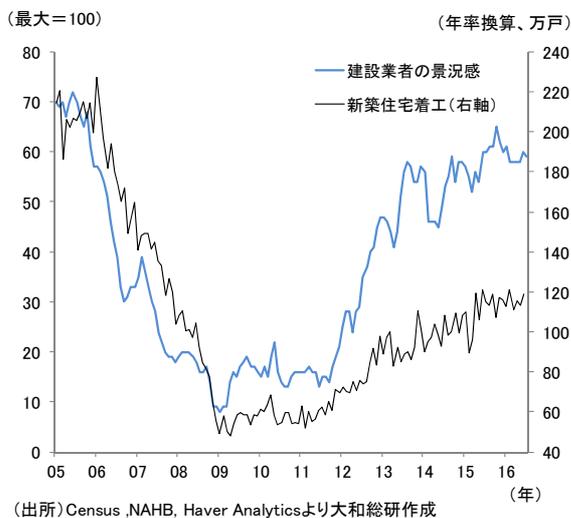
### 住宅販売（一戸建て）



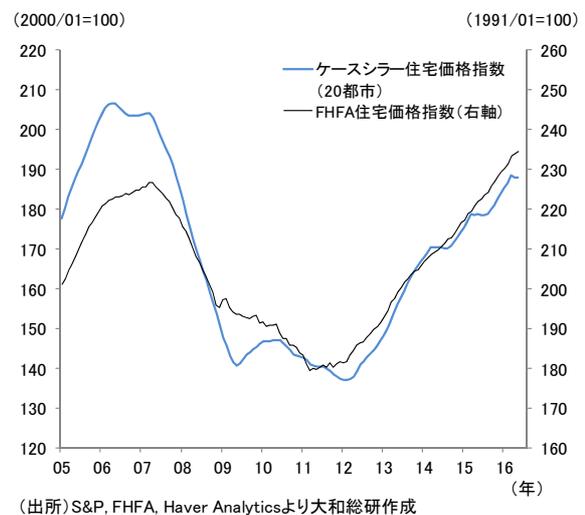
### 住宅ローン申請件数



### 住宅着工と建設業者の景況感



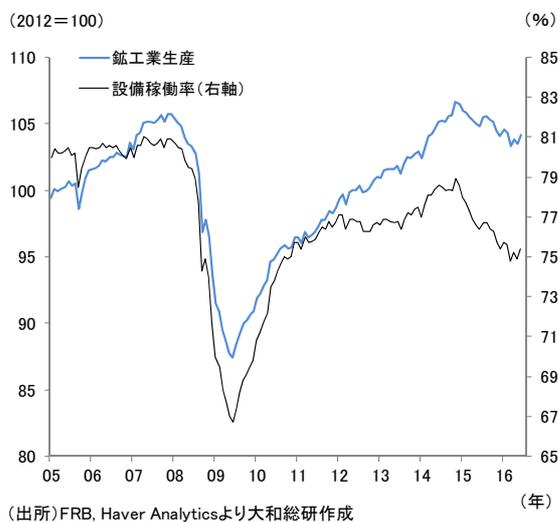
### 住宅価格



## 企業動向

- ◆ 2016年6月の鉱工業生産指数は前月比0.6%の上昇に転じ、2015年7月以来の上昇率となった。指数全体の約8割を占める製造業（SICベース）は、自動車・同部品の生産増加により同0.4%上昇した。
- ◆ 6月の国防・民間航空機を除く資本財受注（コア資本財受注）は、前月比0.4%増加した。3月以来の増加であるものの、低い伸びにとどまった。
- ◆ 7月のISM製造業指数は52.6%となった。前月から0.6%ポイント低下したが、基準となる50%を5ヵ月連続で上回った。非製造業指数も1.0%ポイント低下し、55.5%となった。

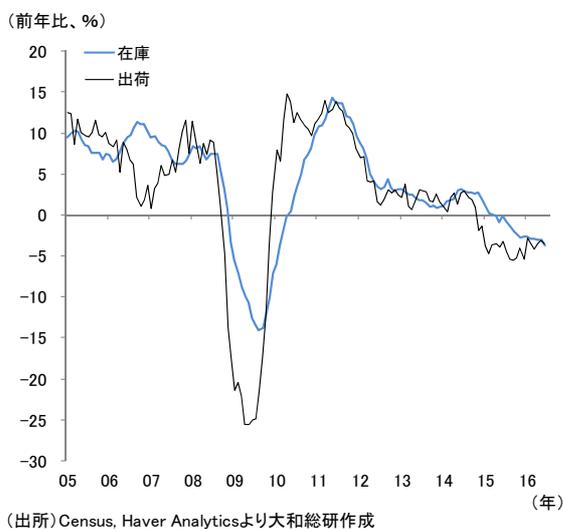
### 鉱工業生産と設備稼働率



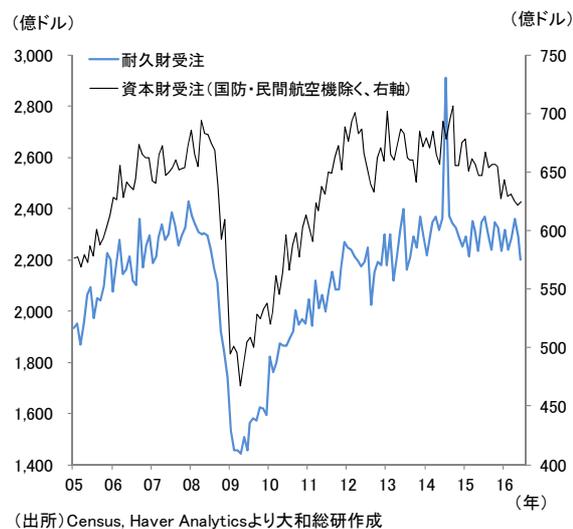
### 企業の景況感



### 製造業の出荷・在庫



### 耐久財受注



## 物価動向

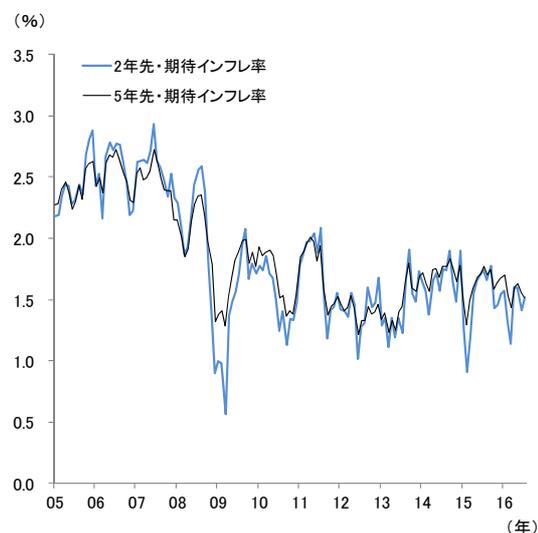
- ◆ 2016年6月のCPI（消費者物価指数）は前年比1.0%上昇した。インフレ率はFRBの長期目標である2%を下回る推移が続いている。コアCPIは同2.3%上昇した。
- ◆ 7月の2年先期待インフレ率は1.52%と前月から上昇したが、5年先期待インフレ率は1.51%で前月から低下した。
- ◆ 7月末のWTI原油先物価格は41.60ドル/バレルで、6月末の48.33ドル/バレルから下落した。原油供給過剰に対する懸念などから、原油価格は6月初旬をピークに下落傾向にある。

### 消費者物価指数



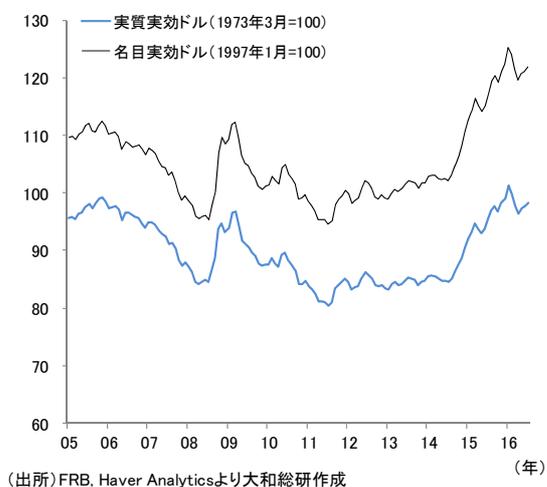
(注)コアCPIは食品、エネルギーを除く。  
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

### 期待インフレ率



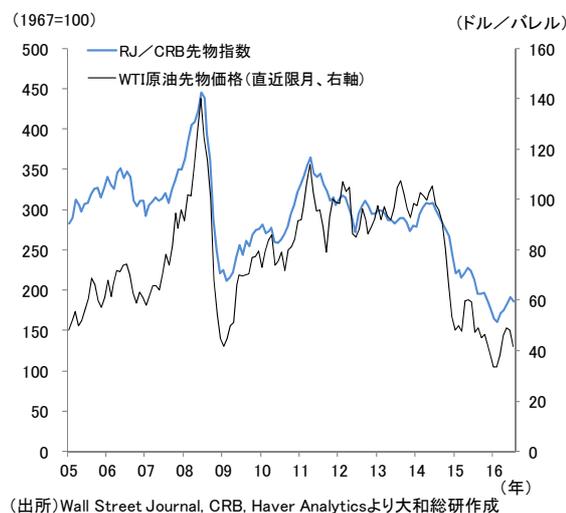
(出所)Cleveland Fed, Haver Analyticsより大和総研作成

### 実効為替レート(ブロード)



(出所)FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

### コモディティ価格

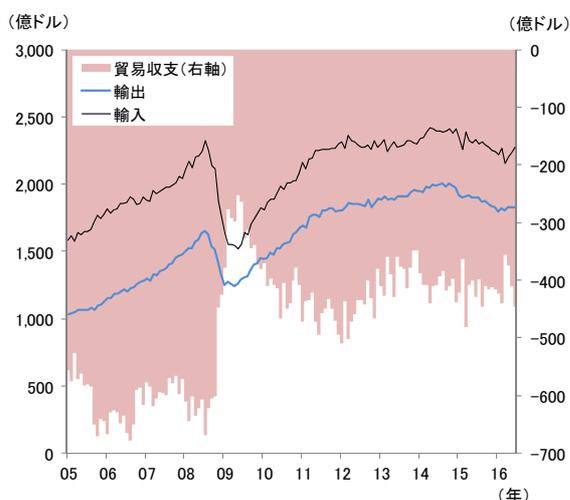


(出所)Wall Street Journal, CRB, Haver Analyticsより大和総研作成

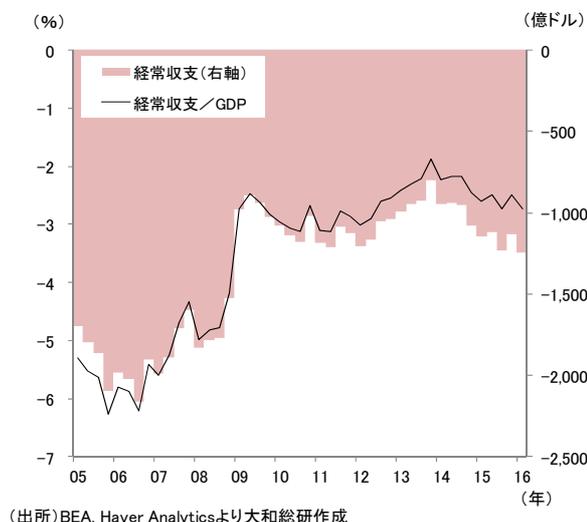
## 輸出入・経常収支

- ◆ 2016年6月の貿易収支（財・サービス）は、輸出が前月比0.3%増加し、輸入も同1.9%増加した。この結果、貿易赤字は前月比8.7%増の約445億ドルとなり、3ヵ月連続で拡大した。
- ◆ 輸出入（財）を商品別に見ると、輸出では食品・飼料・飲料や消費財などが増加し、一方の輸入は、工業用品・原料や消費財などが増加した。
- ◆ 地域別（財）では、欧州への輸出が前年比4.4%増加、日本向けが同1.1%減少、中国向けも同8.3%減少した。輸入は、日本からの輸入が同5.0%増加し、欧州からの輸入は同0.9%減少、中国からの輸入は同6.9%減少した。

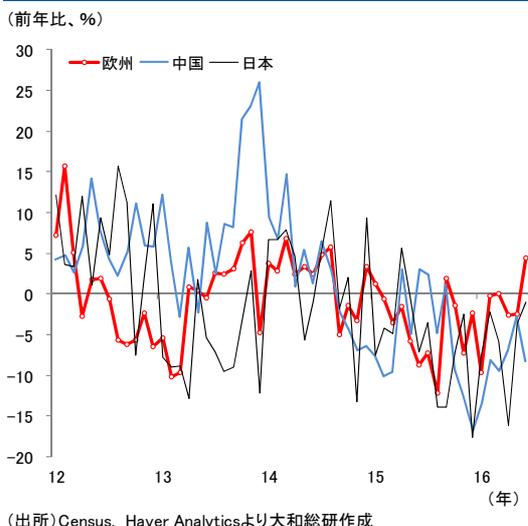
### 貿易収支動向



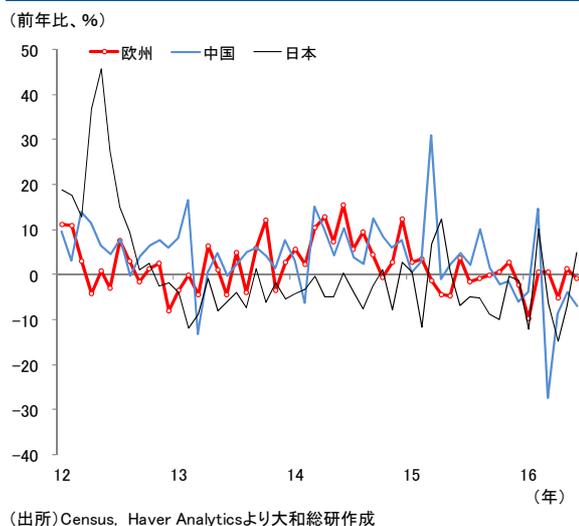
### 経常収支の推移



### 国・地域別輸出動向



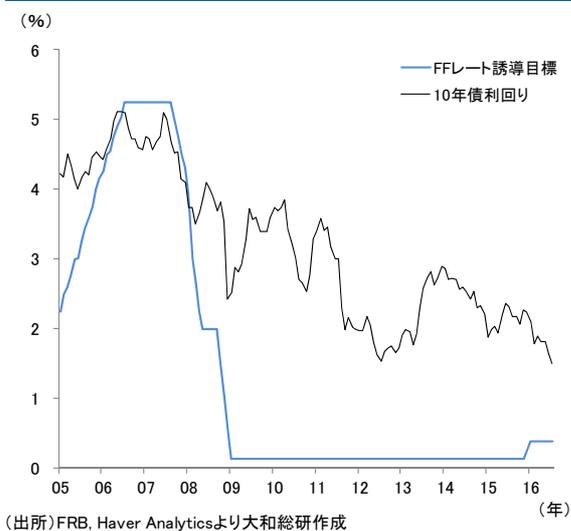
### 国・地域別輸入動向



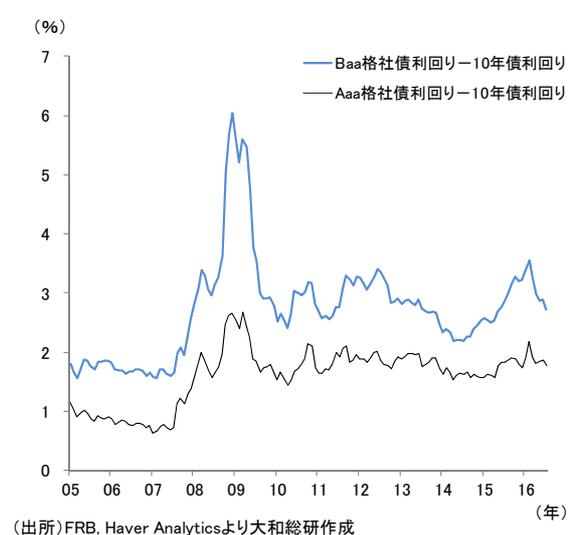
## 金融・財政

- ◆ 2016年7月のFOMC（連邦公開市場委員会）において、政策金利であるFF（フェデラルファンド）レートの目標レンジは据え置かれた。また、保有する資産規模については、現在の水準を維持することが決定された。FRBの資産残高は、直近の8月3日の週平均が約4兆5,100億ドルであった。
- ◆ 7月の長期金利（10年債利回り）の平均値は1.50%となった。7月上旬には一時過去最低を記録し、月中平均値は前月より更に低下した。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）は、トレンドとして赤字幅が縮小してきたが、このところ足踏みが見られている。

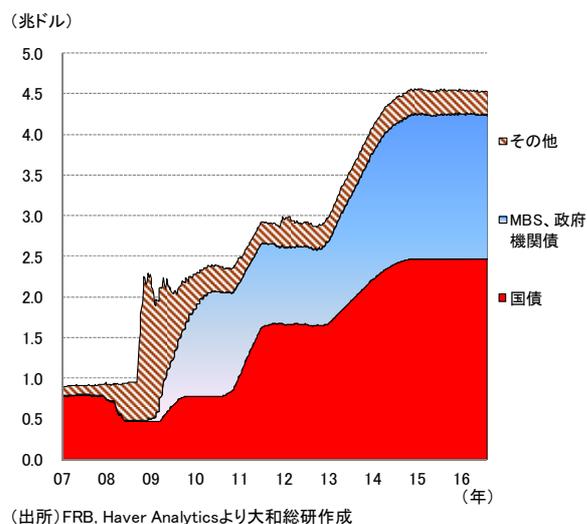
### 政策金利・長期金利



### クレジットスプレッド



### FRBの資産構成



### 連邦政府の財政収支

